

我が国原子力プラント産業の国際展開と地球温暖化対策効果の調査研究

(報告書の概要)

1979年のTMI事故および1986年のチェルノブイリ事故の後、原発の建設は停滞したが、今世紀に入り世界の経済成長に伴うエネルギー需要の増大および価格高騰・変動等エネルギー供給上の不安定性が増すと共に地球温暖化問題への関心が高まるにつれ、化石燃料依存を低減し、二酸化炭素を排出しない原子力発電の新增設の動きが世界的に活発化し、原子力カルネッサンスと呼ばれるような展開が見られる。

このような状況の下で、原発未導入国からサウジアラビア、既保有国からインド、を選んで両国の原発への取り組み状況を現地調査すると共に、その他の国における新增設の動向を概観した上で、我が国原発プラントビジネスの国際展開に係る問題点と解決策ならびに新增設国に対する我が国の協力の在り方を検討した。また地球温暖化対策としての京都メカニズム(CDM/JI)の原子力発電への適用についても検討した。

(報告書の主要構成)

- (1) はじめに
- (2) 調査研究の目的・実施方法・日程
- (3) 世界エネルギー市場における民生用原子力エネルギーへの期待
- (4) 本邦企業による海外における原子力プラントビジネスの展開
- (5) 現地調査対象国における原子力発電計画と我が国企業のプラントビジネス推進への取り組み
- (6) 我が国企業による海外原子力発電プラントビジネス展開に係る問題点と解決策
- (7) 対象国原子力発電プラント導入によるCO₂削減期待と京都メカニズム手法の導入可能性

APPENDIX

- (1) 委員会議事録(第1回～第3回)
- (2) 海外調査記録
 - ①調査日程
 - ②面談記録(サウジアラビアおよびインド)
- (3) 参考文献(参考文献リスト及び新聞記事等の内容紹介)